



OpenShift Container Platform 4.1

Telemetry

OpenShift Container Platform 4.1 における Telemetry の概要

OpenShift Container Platform 4.1 Telemetry

OpenShift Container Platform 4.1 における Telemetry の概要

法律上の通知

Copyright © 2020 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、OpenShift Container Platform 4.1での Telemetry についての情報を提供し、これを無効にする方法について説明します。

目次

第1章 TELEMETRY について	3
1.1. 収集される情報	3
第2章 TELEMETRY によって収集されるデータの表示	4
2.1. クラスターから収集されるデータの表示	4
第3章 TELEMETRY からのオプトアウト	5
3.1. TELEMETRY の無効化による影響	5
3.2. TELEMETRY の無効化	5

第1章 TELEMETRY について

Telemetry は、以下についての匿名化され、集計された情報を収集します。

- OpenShift Container Platform クラスターのサイズ
- OpenShift Container Platform コンポーネントの健全性およびステータス
- OpenShift Container Platform コンポーネントの使用
- 使用中の機能

この情報は、OpenShift Container Platform をより使用しやすく、より直感的に使用できるようにするために Red Hat によって使用されます。この情報のいずれもサードパーティーと共有されることはありません。

1.1. 収集される情報

Telemetry は、ユーザー名、パスワード、またはユーザーリソースの名前またはアドレスなどの識別情報を収集せず、今後も収集することはありません。

収集される主要な情報には、以下が含まれます。

- クラスターごとに利用可能な更新の数
- 更新に使用されるチャンネルとイメージリポジトリ
- 更新時に発生したエラーの数
- 実行中の更新の進捗情報
- クラスターごとのマシン数
- CPU コアの数およびマシンの RAM のサイズ
- etcd クラスターのメンバー数、および現在 etcd クラスターに保存されているオブジェクトの数
- マシントイプ (インフラまたはマスター) ごとに使用される CPU コアおよび RAM の数
- クラスターごとに使用される CPU コアおよび RAM の数
- クラスターごとの OpenShift Container Platform フレームワークコンポーネントの使用
- OpenShift Container Platform クラスターのバージョン
- クラスターにインストールされている OpenShift Container Platform フレームワークコンポーネントの健全性、状態、およびステータス。たとえば、クラスターバージョン Operator、クラスターモニタリング、イメージレジストリー、およびロギング用の Elasticsearch がこれらのコンポーネントに含まれます。
- インストール時に生成される一意でランダムな識別子
- Amazon Web Services などの OpenShift Container Platform がデプロイされているプラットフォームの名前

第2章 TELEMETRY によって収集されるデータの表示

管理者は、Telemetry が収集するメトリクスを確認する必要がある場合があります。

2.1. クラスタから収集されるデータの表示

Telemetry でキャプチャーされるクラスタとコンポーネントの時系列データを表示することができます。

前提条件

- **oc** として知られる OpenShift コマンドラインインターフェース (CLI) のインストール。
- **cluster-admin** ロールを持つユーザーとしてクラスタにログインする必要があります。

手順

1. OpenShift Container Platform クラスタで実行される Prometheus サービスの URL を見つけます。

```
$ oc get route prometheus-k8s -n openshift-monitoring -o jsonpath="{.spec.host}"
```

2. URL に移動します。
3. このクエリーを **Expression** 入力ボックスに入力し、**Execute** を押します。

```
{__name__="up"} or {__name__="cluster_version"} or  
{__name__="cluster_version_available_updates"} or {__name__="cluster_operator_up"} or  
{__name__="cluster_operator_conditions"} or {__name__="cluster_version_payload"} or  
{__name__="cluster_version_payload_errors"} or  
{__name__="instance:etcd_object_counts:sum"} or  
{__name__="ALERTS",alertstate="firing"} or  
{__name__="code:apiserver_request_count:rate:sum"} or  
{__name__="kube_pod_status_ready:etcd:sum"} or  
{__name__="kube_pod_status_ready:image_registry:sum"} or  
{__name__="cluster:capacity_cpu_cores:sum"} or  
{__name__="cluster:capacity_memory_bytes:sum"} or  
{__name__="cluster:cpu_usage_cores:sum"} or  
{__name__="cluster:memory_usage_bytes:sum"} or  
{__name__="openshift:cpu_usage_cores:sum"} or  
{__name__="openshift:memory_usage_bytes:sum"} or  
{__name__="cluster:node_instance_type_count:sum"}
```

このクエリーは、Telemetry が実行中の OpenShift Container Platform クラスタの Prometheus サービスに対して行う要求をレプリケートし、Telemetry によってキャプチャーされる時系列の完全なセットを返します。

第3章 TELEMETRY からのオプトアウト

お使いのクラスターについて Telemetry からオプトアウトする必要がある可能性があります。たとえば、プライバシー法に従う必要がある場合がその例となります。

前提条件

- **oc** として知られる OpenShift コマンドラインインターフェース (CLI) のインストール。
- **cluster-admin** ロールを持つユーザーとしてクラスターにログインする必要があります。
- **cluster-monitoring-config** ConfigMap オブジェクトを **data/config.yaml** セクションで設定している必要があります。詳細は、[クラスターモニタリング ConfigMap の作成](#) について参照してください。

3.1. TELEMETRY の無効化による影響

OpenShift Container Platform 4.1 では、お客様は Telemetry サービスからオプトアウトすることができません。ただし、Telemetry はコアコンポーネントとして組み込まれ、クラスターの全体機能の一部として機能します。したがって、オプトアウトを使用しないことが強く推奨されます。

Telemetry をオプトアウトすることによる影響には、以下が含まれます。

- Red Hat OpenShift Cluster Manager が予想通りに機能せず、クラスターについての重要な情報を表示しなくなる。
- ご使用のクラスターが Red Hat の有効なサブスクリプションを使用しているかどうかの確認を含むサブスクリプション管理を **cloud.redhat.com** で行うことができなくなる。非接続のサブスクリプション管理はオプションとして選択できないため、データを Red Hat に送ることを選択しないことと、サブスクリプションを有効にすることを両立させることができません。
- アップグレード時に生じる障害の報告による品質保証が適用されない。
- 有効なサブスクリプションでクラスターを使用できない。

非接続環境向けの OpenShift Container Platform のデプロイメントおよび管理機能は今後の重要な目標とされており、OpenShift Container Platform の今後のバージョンで提供される予定です。

3.2. TELEMETRY の無効化

Telemetry を無効にすることは可能です。

手順

1. **cluster-monitoring-config** ConfigMap の編集を開始します。

```
$ oc -n openshift-monitoring edit configmap cluster-monitoring-config
```

2. 以下に示すように、Telemetry を無効にするために必要な 2 つの行を **data/config.yaml** セクションに追加します。

```
apiVersion: v1
kind: ConfigMap
metadata:
```

```
name: cluster-monitoring-config
namespace: openshift-monitoring
data:
  config.yaml: |+
    telemetryClient:
      enabled: false
```